

あらかわ 大好き NEWS

感染者数は少し減ってきましたが、新型コロナウイルスのために日常生活・経済活動が多大な影響を受けています。荒川区でも保健所の他に医師会協力のPCR検査のセンターが稼働し始めました。早く終息しますよう。

No.
70

討議資料

荒川区議会新議長に就任

荒川区議会5月会議・臨時議会が5月28・29日と開催され、私、明戸まゆみが**新議長に就任**いたしました。前議長の後を継ぎ、全力を尽くしてその職責を果たしていく所存でございます。

昨年12月より新型コロナウイルス感染症は、一旦日本では緊急事態宣言は解除されましたが、「ウィズコロナ」での新生活様式、「アフターコロナ」としての大きな歴史の転換点、「コロナショック」に打ち勝ち、区民を守る施策。荒川区議会の役割も問われて来ようと思います。**議会改革**を推し進め、**議会の透明性、情報公開、区民の信頼を確保**し、さらなる課題解決のために、西川区政との緊密な連携を図るとともに、議決機関として緊張を保ちながら、21万を超える荒川区民の皆様の幸せのために、尽力いたします。88年を迎えた荒川区議会の68代目の議長として、**思慮深く品位ある荒川区議会**へ邁進していきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

自民党区議団、PCRセンター実現！

昨年12月に初めて確認された新型コロナウイルスは、瞬く間に世界中に拡大し、我が国における都内感染者も4,000人を超え、日常生活や地域経済にも深刻な影響が出ています。自由民主党荒川区議会議員団は、**3月4日、4月8日**と西川太一郎区長へ**緊急要望書**を提出してきましたが、感染の拡大が止まらない新型コロナウイルスへの更なる対策として、**4月17日**に西川太一郎区長へ以下のような緊急要望書を提出しました。荒川区は自民党区議団の強い要望を受け、**荒川区医師会の協力**の下、4月30日より区内に**PCRセンター**を設置することを決定しました。保健所で行っているPCR検査に加えて、**3倍の検査量**を確保できる見込みです。

新型コロナウイルス対策に関する緊急要望

- ①多くの区民が通院している東医療センターの外来中止による地域医療への影響を最小限に抑えるため、国、東京都、医師会等の関係機関と十二分に連携し、**地域の医療体制の確保**を図ること。
- ②一刻も早く区内における**PCR検査の体制を整備**するとともに、必要に応じて財政援助を行うなど、その充実を図ること。

PCRセンターの利用方法

検査を希望される区民の方は、まず区内の**かかりつけ医**や**医療機関**で事前に**電話**で予約した上で受診を受ける。

医師により検査が**必要と判断**された方が**検査**を受けることができます。

*混乱防止のため、実施場所については、非公開となります。



【新型コロナウイルス感染症の一般相談窓口】

荒川区保健所感染症予防係 8:30-17:15平日のみ
TEL 03-3802-3111内線430・03-3802-4244(直通)
東京都電話相談(コールセンター) 多言語(日本語英語、中国語、韓国語)相談
TEL 0570-550571(ナビダイヤル)9:00-22:00
聴覚障害のある方などからの相談 FAX 03-5388-1396

【新型コロナ受診相談窓口】

荒川区保健所 8:30-17:15 平日のみ TEL 03-3802-4243
合同電話相談センター 平日 17:00-翌 9:00
都・特別区・八王子・町田) 土日祝日 終日受付 TEL 03-5320-4592

荒川の**明るい未来の**戸をあける 自民党に新しい風を！

発行 荒川区東尾久4-27-8-303 電話：080-6505-8823 FAX：03-6327-6308

ご意見・
お問合せも

E-mail: akedo@akedo.jp
HP: http://www.akedo.jp/



明戸まゆみ



あけど 荒川区議会議員
明戸まゆみ



自民党の強い提案で、区独自の補正予算 10 億円

5月1日開会の令和2年度荒川区議会開会会議において、総額233億円余の第1回補正予算を可決いたしました。自由民主党荒川区議団の強い要望により以下の3点が決定。新型コロナウイルスから区民の生活と命を守る補正予算です。

保健所で行っているPCR検査の他、自民党荒川区議会議員団の強い要望により、荒川区でもPCR検査の体制が整いました。区独自の10億円の補正予算の中から、陽性反応の出た区民のみならず、自宅待機ではなく、軽症者はホテル療養、中等・重症者は病院に入院ができるように、区内外の大学病院等にベッドを確保するべく体制を整える予定です。

①新型コロナウイルス感染症対策事業（8億円）：感染症拡大防止のため、PCR検査の体制強化、受診・治療体制を確保するために必要な医療従事者への支援 ②避難所における感染症対策事業（0.5億）：マスクや消毒液、防護服などの備蓄 ③予備費の増額（2億円）：感染症拡大防止に機動的な対策を講じていくための予備費増額。

この他、国の特別定額給付金事業（220億）、子育て世帯への臨時特別給付金事業（23億）です。自由民主党荒川区議団は今後も新型コロナウイルスに打ち勝つ為の様々な要望を続けて参ります。

緊急要望第4弾！ ICTを活用した家庭学習を要望

新型コロナウイルスの感染状況については依然厳しく、緊急事態宣言も延期されました。自民党荒川区議団は、区の将来を担う子ども達や苦境にある区内中小企業を支援するため、積極的な対策を行うことを緊急要望（第4弾）として5月1日に西川区長に提出し、強く要望しました。

①休校の長期化に伴う学習の遅れを補うために、ICTを活用した家庭学習を児童生徒が自主的に取り組めるよう環境を至急整備すること ②長時間家庭で過ごすことによるストレスでの児童虐待も懸念され、休校中における学校と児童生徒の関係維持につとめ、家庭崩壊の防止対策を行うこと ③区内の中小企業が経営と雇用を維持するために、休業補償やテレワーク推進等の緊急対応手続きに社会保険労務士・行政書士等を活用した支援策を講じること。

緊急要望第5弾！ 介護事業所等・子育て家庭への支援を要望

長期にわたり日常生活が大きく制約される中、区民や区内事業者の疲弊はピークに達しています。区内中小事業者に対する支援と子育て世帯をはじめとする区民の生活支援に直結する取組、を緊急要望（第5弾）として5月13日に西川区長に提出しました。

①行財政改革の成果として積み増した基金の積極的活用。②介護事業所や障がい者施設等の事業者への感染拡大防止のための環境整備の補助や手当制度の創設による事業継続の支援。③新型コロナウイルス対策融資の継続実施。④煩雑な手続きの国の給付金や助成金、都の協力金等の手続きに、中小企業診断士、税理士、社労士、行政書士等を活用しての相談窓口設置。⑤負担が増加している子育て世帯の負担を少しでも軽減する施策（子1人1万円分クオカード）実施。⑥熱中症予防のエアコン購入助成制度の時限的創設。⑦感染予防策を徹底した上での区施設の再開。

荒川の明るい未来の戸をあける

問合せは明戸まで！

昭和45年、青森県十和田市生まれ。49歳。
岩手大学卒、東京大学大学院修了、國學院大学大学院博士課程。
NPO地域交流センター研究員を経て平成20年初当選、現在3期目。

あけど 荒川区議会議員
明戸まゆみ

